



「アグリサポートセンターでは、生産者の稲刈りの受託作業が8月16日より始まりました。近年、受託件数、面積ともに増加傾向にあります。今年は現時点（8月28日）で202件、約32畝の申込みを受け付けており、コンバイン3台態勢で受付順に随時作業を進めています。」

受託件数の増加の要因は、生産者の高齢化や世代交代による兼業化が理由として挙げられます。また、全作のうち、約6割は田植えと稲刈りの両作業をセットで受託しています。同センター兼野広志課長は「作業依頼が8月末から9月上旬に集中している。なるべく組合員の希望に添えるようにスケジュール調整をしていきたい。」と意気込んでいます。

作業は10月上旬まで続く予定です。

【写真は、稲刈りの受託作業を行うアグリサポートセンター職員】



川内支所甘藷部会は、半世紀以上の間続いてきた個販出荷を今年12月より共販出荷体制へと移行します。

大手スーパーへの流通増加の傾向から市場のニーズに対応し、一定の品質を保ちながら、まとまった物量ロットを確保し、さらなる有利販売につなげます。また、徳島県内の甘藷主要産地では、「関東向けの共販」や「早掘り時期の共選共販」の実施がされていることを背景に、県内で最も早く、同部会が完全な共販体制への移行に取り組みることによって、市場の信頼を勝ち取ることも狙いの一つです。

部会では、共販出荷の実施にあたり8月29日、東部集出荷場で、目慣らし会を開催し、部会員約120名が参加しました。今後、部会では、品質や選別の統一化のため、目慣らし会をこれまで以上に開催し、等級レベルの周知徹底を行い、産地のブランド力向上に努めます。伊勢直樹部会長は、「これまでも市場取引における信頼確保のため、部会では選別に重点を置いていた。部会員一同、さらに選別に注力することで、市場のニーズに対応し、選ばれる産地を目指し、なると金時と言えば『甘姫』だと言ってももらえるように精一杯、取り組みたい。」と意欲を燃やします。

【写真は、東部管農経済センター 佐藤徹也指導員の説明に聞き入る生産者】

甘藷共販出荷へ 市場の需要に対応
12月より本格移行

8月4日より露地すだちの出荷がスタートしました。現在（8月9日取材時）、日量平均約2トが出荷されており、果樹選果場では毎日、選果作業が順調に行われています。7月中の降雨が少なかったことから、果実がやや小ぶりの傾向ではありますが、8月に入り、雨量も多いため、潤沢な肥大を見込んでいます。

今年は表年にあたり、予定出荷量は前年比の164%（180ト）を予定しています。

ピークは8月下旬から9月中旬の予定です。選果場担当者は、「すだちは、県産食材の盛り立て役。阿波踊りがもうすぐ開催されるが、県外の方々にも徳島の夏の彩りとして飲食店等で味わっていただけたら。」と話しています。

【写真は、選果作業を行う従業員】



露地すだち出荷スタート



応神事務所管内の佐藤義弘さんは7月下旬より、梨の出荷を行っています。佐藤さんは、現在50アを栽培しており、7月28日（取材時）には80ア（5〜10ア）を出荷しました。

今年は、8月初旬から中旬までは「幸水」が、8月中旬以降は「豊水」が出荷される予定です。例年に比べ、3月下旬から4月上旬にかけて気温が高かったことから、「豊水」の開花の時期が1週間ほど早く、出荷もやや早い傾向がそうです。

【写真は、実の状態を確認する佐藤さん】

梨出荷順調

ブロッコリー担当者会 育苗センターを見学

トピックス



8月17日、農林水産総合技術センターで第1回ブロッコリー担当者会が開催され、北部営農経済センター佐藤宏樹指導員・近藤義之指導員・各JA・県支援センター・高度技術支援課、JA全農とくしまの各担当者が参加しました。ブロッコリーの各地域の状況、展示圃の結果に関する情報提供、黒すす病対策、品種試験情報の報告・意見交換が行われました。県下のブロッコリーの生産高は、平成28年度の約7,260トから令和3年度では約9,500トに著しく増加していますが、一方では黒すす病等の深刻な課題を抱えています。

ブロッコリー担当者会では、黒すす病の発病抑制のため、減肥・ドローンによる防除等の試験を行い、また進捗状況・結果を県下で共有し対策に努めます。

その他、株式会社JA板野郡アグリサポートで、育苗技術についての現地研修があり、夏期の育苗管理、使用する資材、播種作業の注意点、発芽時・生育初期・生育中期以降の管理ポイント、病虫害対策、高温または曇天時の対策等についての説明を受けました。【写真は、株式会社JA板野郡アグリサポート見学の様子】

いちご硝酸態窒素検査

当JAでは、液肥の調整、花芽分化に向け、8月中旬より管内でイチゴの硝酸態窒素検査を開始しました。

8月22日、多家庭支所いちご部会の8名の生産者が、いちごのサンプルを持ち込み、硝酸態窒素検査を行いました。支援センター担当者が成長より3枚目の葉の茎の部分の採取し、コンパクト硝酸イオンメーターで硝酸態窒素の濃度を測りました。

同部会 鶴亀秀明部会長は「9月の花芽分化に向け、今後の管理作業が課題。今年は特に気温が高いため、炭疽病等、輪斑病対策として、防除の間隔を短くする等、しっかり管理を徹底していきたい。」と話しました。部会では9月中旬から花芽検鏡を実施する予定です。【写真は、サンプルを持ち込んだ生産者の硝酸態窒素の濃度を測る麻植優治課長代理と支援センター担当者】



農産工場 赤シソ加工順調

農産工場では、赤シソの加工が順調です。生産者が栽培した赤シソの葉を工場で塩蔵しています。管内では39戸の生産者が787㎡を栽培しており、色が濃く、香りが強い品種を栽培しています。今年は8月末までに約67トの集荷がありました。

工場では、集荷した赤シソの葉を選別し、洗浄機にかけ、梅酢と塩を混ぜて揉み込み、脱水機にかけます。

武田元成工場長は「選別作業や、異物除去を徹底し、高品質出荷に努めたい。」と話しました。【写真は、集荷した赤シソを洗浄機にかけける従業員】



JAでんき研修会を開催

8月18日、本所にて「JAでんき研修会」が開催され、当JA職員・全農エネルギー株式会社電力事業部・JA全農・ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社の各担当者が参加しました。

研修会では、全農エネルギー株式会社電力事業部より事業内容の紹介があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。全農エネルギー株式会社電力事業部では、JAでんきをお客様に安定的に届けられるよう日々の需要を予測し、相対契約と市場取引を組み合わせ、需要に見合う最適な電源調達を行うとともに、毎日の監視で需給バランスの確認を行う需給管理業務を行っています。

また、研修会では電力情勢についての報告と、参加した職員による推進方策についてグループディスカッションが行われました。【写真は、グループディスカッションを行う職員】



こんにゃく芋の草丈 2mに成長

佐那河内支所管内でかんきつ類を栽培する山口充張さんの紅八朔の圃場で、こんにゃく芋の草丈が約2mにまで成長しています。こんにゃく芋の草丈がこのように大きくなったのは約40年、農業をしていて初めてのことでそうです。こんにゃく芋の草丈は平均50～100㎝程だそうで、大きいものでは150㎝程になるようです。



昨年度は、ホウレンソウのべと病が大量に発生し、生産量の大幅な減少を招きました。ホウレンソウのべと病は、発生が蔓延してからの防除は困難なため、予防的な対策や発生しづらいほ場の環境整備を心がけるなど、総合的な防除に取り組みましょう！

べと病菌について

- 糸状菌（かび）の一種で、春と秋の2回発生し、厳寒期は発生が止まります。
平均気温が8〜18℃、特に10℃前後で曇天や雨が続きと多発しやすいです。
発生初期には黄白色の小さな斑点が形成され、さらに被害がすすむと淡黄色の不整形形の病斑となり、病斑の裏側にはネズミ色ないし灰紫色のカビを生じます。
雨水や風によって罹病株から健全株に感染するほか、罹病株の残渣を感染源とした土壌伝染も起きることから、次作にも影響します。

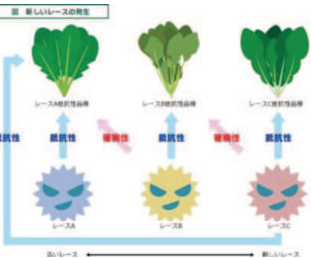


(農文協) ※転載許諾済み、転用不可

べと病菌のレースについて

- ホウレンソウのべと病抵抗性は、抵抗性を示すべと病菌に対して、「レース」と呼ばれる番号を付けて抵抗性を表記しています。
例えば、レースA抵抗性品種を罹病させるべと病菌が新たに発生した場合、そのべと病菌系はレースBと名付けられ、それに抵抗性を示したホウレンソウ品種は、「レースB抵抗性」と表記されます。
現段階で、1〜19のレースが存在することが知られています。
べと病抵抗性品種の育成に使われている抵抗性遺伝子は複数あり、利用する遺伝子が増えれば増えるほど、べと病菌の病原性も多様化します。

※数字の大きいレースに対して抵抗性を持つほど、抵抗性が強いというわけではありません。

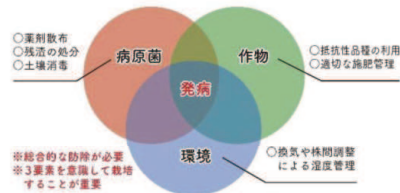


現在栽培している品種がどのレースに対応しているのかを確認し、より多くのレースに対して抵抗性を持つ品種の栽培を検討することが重要です。

(タキイ種苗、ホウレンソウの最新状況とべと病抵抗(耐病)性の新表記) ※転載許諾済み、転用不可

防除対策について

- 病害は、病原菌・作物・環境の3要素の条件が揃ったときに発生します。
どれか一つでも条件が揃わなければ発病はしません。



【図2 植物病害の3要素と防除例】

(サカタのタネ、ホウレンソウべと病の生態と対策) ※転載許諾済み、転用不可

条件ごとに防除対策を実施することで、より確実な防除につながります。

【病原菌に着目した防除例】

- 薬剤散布
病原菌がほ場に蔓延してからの防除は手遅れとなるため、早めの予防散布が重要です。
下葉や葉裏にかかるよう丁寧に散布しましょう。
残渣処理と土壌消毒
残渣処理と土壌消毒は、土壌中の病原菌の密度を減少させ、土壌伝染のリスクを下げることに繋がります。
罹病株の放置は、周辺の健全株やほ場の伝染源になるほか、次作の栽培にも影響が出るため、見つけ次第ほ場外に持ち出し、処分しましょう。

【作物に着目した防除例】

- 作型に合わせたべと病抵抗性品種の利用
抵抗性品種を利用することで発病を抑えることが可能です。
ただし、新しいレースの発生による品種の抵抗性打破のリスクは常にあるため、抵抗性品種の利用だけでなく、適期防除や、発生しづらいほ場の環境整備等にも心がけましょう。
適正施肥による作物体の強化
窒素過多や肥料切れ等による樹勢低下もべと病発生の原因となるため、生育状況を適宜観察し、適切な肥培管理に努めましょう。

【環境に着目した防除例】

- 栽培環境の整備
べと病菌の生育に適した多湿条件にしないことが発病の抑制につながります。
過度の密植を避けて通気性・排水性を良くする等の対策を取ることが重要です。

健康百科

「白血病について」 徳島往診クリニック 吉田大介

みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。白血病は、急性白血病と慢性白血病に大きく分けられ、さらに細胞系別から骨髄性白血病とリンパ性白血病に分けられます。白血病では、造血幹細胞レベルあるいは前駆細胞レベルで遺伝子異常が生じ、腫瘍性の血球細胞が無制限に増殖し(癌の特徴ですね)、そのため正常の血球が抑制される事による症状と腫瘍細胞の臓器浸潤ともなう：肺だと呼吸不全、脳だと中枢神経症状といった症状を呈することになります。骨髄性白血病の中で、急性骨髄性白血病 (Acute Myeloid Leukemia: AML) は、造血幹細胞レベルの細胞に遺伝子異常が起こるか、自己複製能をもたない前駆細胞レベルの細胞に自己複製能を持たせる遺伝子異常が起こって発症します。また、MDSの状態にさらに遺伝子異常が順次加わることで、AMLへと進展します。慢性骨髄性白血病 (chronic myeloid leukemia: CML) は、自己複製能を有する造血幹細胞レベルの未分化な細胞に異常が生じ、フィラデルフィア染色体上に形成された融合遺伝子が恒常的活性型チロシンキナーゼとして機能することで発症します。急性リンパ性白血病はリンパ系腫瘍の中で前駆型リンパ球系腫瘍に、慢性リンパ性白血病は成熟B細胞系腫瘍に分類されます。国立がん研究センター情報サービスによりますと2018年の日本における白血病の人口10万人当たりの罹患率は11.3例(男性13.6例 女性9.1例)と報告されています。症状としては、正常の血球産生が抑制されることによる貧血、感染、出血傾向や腫瘍細胞の浸潤によるリンパ節の腫脹や肝脾腫、骨痛や皮疹・歯肉腫脹等が見られます。

急性白血病の治療目標は、骨髄中の白血病細胞をなくすことと骨髄機能の回復です。病系により様々な治療レシピがありますが、基本的には抗がん剤を組み合わせた強力な化学療法が基本で、一部分子標的薬も実用化されています。化学療法を施行して、骨髄中の芽球が5%未満となり正常造血が回復すると「完全緩解」と呼ばれ、寛解後の治療を「地固め療法」と呼びます。再発例や寛解導入不可の場合は、同種造血幹細胞移植の適応となります。

急性骨髄性白血病の中で、特定の染色体・遺伝子異常を持つものは独立した病系として扱われますが、その中でPML-RARAという異常を持つものは、急性前駆細胞性白血病 (acute promyelocytic leukemia: APL) と呼ばれ、凝固・線容異常と出血を来しやすく特に注意が必要です。APLはAMLのうち10〜15%を占め、30〜50歳代に多く60歳以上では減少します。APLでは貧血・易感染性の他に線容系の異常亢進によるDIC(播種性血管内凝固: disseminated intravascular coagulation)により、皮下・鼻腔・口腔・消化管・頭蓋内等に重篤な出血症状を来すことが多く見られます。また、APL細胞の肺や腎臓への浸潤により、発熱・呼吸困難・低血圧・体重増加・胸水・腎不全などを合併し、APL分化症候群と呼ばれています。若い方で、こういった症状を呈する時はAPLを念頭に置き、早急に検査を進め診断をつけることがとても重要です。APLを診断するためには、末梢血と骨髄で豊富なアズール顆粒を持ち、Auer小体を多数認めるファゴット細胞を同定することが重要で、骨髄中の芽球と前駆細胞が20%を越えることで診断できます。また、PML-RARA遺伝子を確認することも重要です。

APLではDICによる脳出血等の重篤な出血症状のため早期死亡する例も多いため、迅速な診断と治療開始が求められます。APLの初期治療においては、ビタミンA誘導体のオールトランス型レチノイン酸: ATRA (all-trans retinoic acid) が開発されてから治療成績が飛躍的に向上し、70代未満におけるATRAと化学療法での完全緩解率は90〜95%となっています。

島田清弁護士無料法律相談

- 日時 第3土曜日 9:00〜12:00
金融共済部へ事前に予約が必要
申込先 ☎088-622-8003
場所 本所1階金融相談室

賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

- 日時 10月3日(火)、10日(火)、24日(火)
9:30〜15:00
金融共済部へ事前に予約が必要
申込先 ☎088-622-6335
場所 本所1階金融相談室

理事会だより(令和5年8月24日)

協議事項

- (1) 近隣4JA合併協議会の設立に向けた取り組みについて【可決】
(2) リスク評価書(特定事業者作成書面等)の改正について【可決】
(3) 出資口数の一部減口について【可決】
(4) 3億円超の信用の供与について【可決】

報告事項

- (1) JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング報告」について
(2) 令和5年度みのり監査法人による期中監査I①の実施について
(3) 債権回収について
(4) 理事会決議事項処理状況報告
(5) 前回金融共済委員会および営農経済委員会の協議内容について



農業婚活「なると金時掘り&たぬきケーキ作り体験」



農家の独身男性と一般女性との婚活イベントを開催します。
 美味しい！なると金時掘りとたぬきケーキ作り体験を通じて交流しませんか？
 皆様のご参加をお待ちしております！

参加者募集

- ◆開催日時：令和5年11月19日(日曜日) 12:30~18:00
 受付時間 12:00~、集合場所 ハレルヤスイーツキッチン(駐車場使用可)
 (板野郡松茂町広島字北川向四ノ越30)
- ◆参加条件：40歳位までの独身男女 (※男性は「徳島市の農業従事者または農家の後継者」)
- ◆募集人員：男女各10人 (応募者多数の場合は抽選)
- ◆参加費：男性1,000円 女性1,000円 (※当日受付時にお支払いいただきます。)
- ◆申込み方法：所定の参加申込書に必要事項を記入し、持参・郵送・FAX・電子申請の
 いずれかの方法でお申し込みください。
- ◆募集締切り：令和5年11月2日(木) (必着)

◎雨天でも実施します。ただし、なると金時掘りは中止になる場合があります。
 (中止時には、なると金時が当たるクイズやゲームを実施します。ケーキ作り体験は予定通り実施します。)



登録型のお見合い事業も実施しています。
 詳しくは徳島市ホームページをご覧ください。



(登録型お見合い事業用QRコード)

[お問い合わせ・お申し込みは]

■JA徳島市本所 営農経済部
 〒770-0941 徳島市万代町5-71-11
 TEL(088)622-6338
 FAX(088)622-6710

■徳島市農業委員会事務局
 〒770-8571 徳島市幸町2-5(徳島市役所)
 TEL(088)621-5394
 FAX(088)621-5196



(イベント用QRコード)

徳島市農林漁業者物価高騰対策支援金について

徳島市では、長期化する原油・原材料価格の高騰を受け、厳しい経営状況に直面している農林漁業者に対して、事業継続を支援するための支援金を交付しています。

徳島市農林漁業者物価高騰対策支援金の交付要件を満たす農林漁業者については、受付期間内での申請をお願いします。

申請受付期間：令和5年10月31日(火)まで
 お問い合わせ先：徳島市役所農林水産課
 Tel 088-621-5246

※本支援金については、第2回目の公募です。
 (第1回目は、令和5年2月に実施)

アグリサポート事業 水稲苗価格改定のお知らせ

近年の資材価格高騰に伴い、現在、アグリサポートセンターでは令和6年度の水稲苗価格の改定を検討中です。

今後とも水稲苗の安定供給に努めてまいりますので、何卒、ご理解の程よろしくお願いいたします。

詳細が決まり次第、書面にてお知らせさせていただきます。

購買事業の適格請求書等保存方式 (インボイス制度)対応について

令和5年10月1日から導入されますインボイス制度につきまして、JA徳島市およびジェイエイ徳島市燃料サービス株式会社における対応につきましては下記の通りとなります。

発行するインボイス

商品販売の際にお渡しする「納品書」がインボイスとなります。尚、インボイス制度ではインボイスに記載すべき消費税額等の計算方法が定められておりますので、現行の納品書右側に記載されている明細毎の「内消費税額」が非表示になり、合計欄の「内消費税額」のみが表示されることとなります。※一部例外有り

例外1(通常の納品書以外がインボイスとなる場合)

- ①ガス事業 ガス料金請求明細書がインボイスとなります。
- ②石油事業 給油した際のレシートがインボイスとなります。
- ③でんき事業 ポータルサイトからインボイスを出力可能です。
- ④農機事業 農機一体化システムからの納品書がインボイスとなります。

例外2(納品書の再発行により対応する場合)

- ①戸配送サービス
 配送伝票の配達日が納品日と合致しないためインボイス対応不可となります。インボイスが必要な方については納品書を再発行して対応します。
- ②納品書を発行できていない取引(灯油の配達、メーカー直送の飼料など)
 インボイスが必要な方については納品書を再発行して対応します。

インボイスが必要な方へ

インボイスが必要な方は消費税の確定申告で本則課税を選択している方のみとなります。例外2があるためインボイスが不足する可能性がございますので、必要な方には月次単位でインボイスを再発行しお渡しいたします。必要な方におかれましては、お手数ですが最寄りの営農経済センターまでお申しつけ下さい。

ご不明な点等ございましたら最寄りの営農経済センターもしくは営農経済部、燃料サービス本店までお問合せ下さい。

徳島県事業

農業用被覆資材価格高騰緊急支援事業

1. 目的

農業生産資材の価格が高騰・高止まりしている中、県内農業者の経営安定及び産地の維持・発展を図るため、安定生産に欠かせない農業用被覆資材の価格高騰分について緊急的な支援を行います。

2. 支援内容

農業用被覆資材の価格上昇分の1/2相当額を定額支援します。

$$\text{支援額} = \text{支援単価} \times \text{栽培面積}$$

▶対象者

省エネ又は生産規模の維持・拡大に取り組む県内農業者

▶対象となる被覆資材・支援単価

被覆資材	支援単価	種類
ハウスビニール(内張)	2,110円/a	農ビ、農PO等
トンネルビニール	830円/a	農ビ、農PO等
マルチ	220円/a	農ボリ等

※施設栽培に用いるハウスビニール(外張)は支援対象外です

▶対象となる購入期間

農業の安定生産に使用する目的で、令和5年4月1日から令和5年12月31日までに購入したもの